

# 《温故知新》 その十一 迅速測図

故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知る

「迅速測図」とは、明治政府が西南戦争が起こった直後の明治13年から19年にかけて、軍が「迅速」に行動できるように、「迅速」に作り上げた全国地形図です。2万分の1の縮尺で作られた921枚の総てが国土地理院に保管されています。

彩色されており大変わかりやすく、見ていて楽しい地図です。明治初年の地図がまだ普及していない時代に作られ、この地図を見て軍が行動するわけだから、直感的にわかる地図作りを心がけたのでしょう。

逗子近辺は、明治15年測量の「神奈川県相模国三浦郡桜山村」と、「神奈川県相模国鎌倉郡雪ノ下村三浦郡小坪村」の2枚の迅速測図を合わせてほぼカバーできます。

その中から久小校区の一部の山の根と久木を抜き出して紹介しておきましょう。明治初年の地域を俯瞰できます。軍隊を迅速に動かすための地図ですから、道路に注目してみよう。

久木には鎌倉方面から名越と小坪を経た道が、久木の堰場付近(地図では左側下で黒点の多い場所)に集まっています。そこから新宿と逗子へ太い道が通じています。鎌倉から山越しで岩殿寺に至る「巡礼道」も描かれており、裏道として使われていたと想像されます。又池子へは自然公園内の道とほぼ同じところを通って通じています。山の根とは柏原から山越えの道が示されています。柏原への道は主要道として描かれており、そこから尾根道を通って十二所や六浦方面に通じていたと想像されます。昔は山の本々が唯一のエネルギー源、又移動手段が人や馬の足によった時代は、山道が有効に使われており、人と山との関わりは今では想像できないほど大きかったと思われます。



久木小学校区住民自治協議会・広報誌

## 住民協ひろば

第7号 (準備会から通算第28号)

発行日 平成29年11月4日

発行所 逗子市久木2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 田倉 由男

### ・・・市は深刻な財政難・・・

#### 第6回住民協役員会

10月7日(土) 13:30~15:00・久木会館で

24名(役員15名)が参加して開催されました。主とした審議内容は次の通りです。

##### 1. 久木会館運営の件

30年度から(以後4年間)の久木会館の指定管理者の申請を行い、申請は住民協としたことの報告があり、了承されました。併せて31年度から会館を地域活動センターからコミュニティセンターに変更する方針であることが報告され了承されました。

市の財政状況の悪化に伴い、30年度の事業の縮小・廃止・凍結が議論されており、その中にコミュニティセンターの5時以降の閉館も含まれている影響を受けて、久木会館の5時以降の使用の問い合わせが増えていること、31年

以降のコミュニティセンター移行に懸念が生じないか等、市財政状況との関連について発言がありました。

30年度からの久木会館の指定管理者申請を、現在の指定管理者の久木連合町内会から、久小校区住民協に変えた理由は、久木会館の拡充に伴い単独の組織による運営から複数の組織による共同運営に変える必要性が生じてくること、及び31年度から地域活動センターからコミュニティセンターに変更する方針に伴い、運営の主体を地域を包括する組織にすることが望まれていること、によります。

##### 2. 久木会館祭の件

5月末~6月上旬開催の予定で、プロジェクト

リーダーとして龍村副会長が就任することが了承されました。

##### 3. 子ども食堂企画の件

事務局から、住民協が主体となって子ども食堂を継続できる事業として企画する提案がありました。

子ども部会が意見交換会の席上で運営原案を提示し、参加の皆さんから意見を聞きながら、より具体的な形にしていくことになりました。

#### 役員会からのお知らせ

①市の財政事情と30年度住民協交付金に関する市からの提案・・・住民協意見交換会(第2回)

9月22日、各住民協から関係者、市長、市民協働部長以下市関係者が出席して、住民協意見交換会(第2回)が開催されました。席上市長から深刻な市財政悪化の状況の説明がありました。併せて30年度の住民協の係る交付金(案)の提示がありました。

◆市の財政難及び対策に関する市長の説明の要約は以下の通りです。

28年度歳入で約7.3億円の不足があり財政が悪化し、実質収支(注1)が大幅に減少した。29年度予算は補正予算を含めて、財政調整基金(注2)から6.7億円繰り入れて予算を編成したが、30年度は、繰越金は更に減少、財政調整基金はゼロとなり予算編成の目途が立っていない。

(注1) 実質収支は企業決算の黒字に当たるもので、次年度へ繰越金、補正予算の財源、及び財政調整基金(市の貯金)として使われる。逗子市では平均10億円程度あった。

(注2) 財政調整基金は、企業の内部留保に当た

## ②住民協ひろば・特別号

9月末に、広報ずしと同時に、学区の全世帯に配布しました。配布数は5,360部です。市役所市民協働課・市民交流センタースタン

ド・久木会館スタンドに置いてありますので、入手できます。手にされた感想等お寄せください。(連絡先は久木会館・住民協或いは編集者(住所メールアドレスは編集後記参照)まで)

ド・久木会館スタンドに置いてありますので、入手できます。手にされた感想等お寄せください。(連絡先は久木会館・住民協或いは編集者(住所メールアドレスは編集後記参照)まで)

ド・久木会館スタンドに置いてありますので、入手できます。手にされた感想等お寄せください。(連絡先は久木会館・住民協或いは編集者(住所メールアドレスは編集後記参照)まで)

ド・久木会館スタンドに置いてありますので、入手できます。手にされた感想等お寄せください。(連絡先は久木会館・住民協或いは編集者(住所メールアドレスは編集後記参照)まで)

ド・久木会館スタンドに置いてありますので、入手できます。手にされた感想等お寄せください。(連絡先は久木会館・住民協或いは編集者(住所メールアドレスは編集後記参照)まで)

ド・久木会館スタンドに置いてありますので、入手できます。手にされた感想等お寄せください。(連絡先は久木会館・住民協或いは編集者(住所メールアドレスは編集後記参照)まで)

ド・久木会館スタンドに置いてありますので、入手できます。手にされた感想等お寄せください。(連絡先は久木会館・住民協或いは編集者(住所メールアドレスは編集後記参照)まで)

## 部会報告

10月7日(土)、15:00～、ふれあい部会、

### ふれあい部会 報告者 龍村敦子

役員会後、15時から16時の1時間部会を開催しました。過去2回の勉強会1、「ふくしまちづくり」2、「コミュニティサービスのための学びあい」を経て3回目の勉強会です。2回目のコミュニティサービスのための学びあいは最後までたどり着けず中途半端で途切れています。部会に全員参加することは難しいのは当たり前ですから、人も議題も歯抜け状態をその都度埋めながら進めます。3回目の7日は

子ども部会、減災部会が開催されました。3部会からの報告です。

部会の柱のもう1本である「運動機能」を維持

するための「ポールウォーキング」を12月13日にハイランドの西ヶ丘公園で体験する予定をたてました。ふれあい部会からの提案としてハイランド自治会へ山崎さんから話をもっていってもらいます。もう一つの主なる柱「コミュニティサービス」は何をサービス内容に入れるのか、会費はとるのか・・・などかなり足早な意見が出ています。枠組みを決めるとサ

ービス対応の在りようが見えてくると考える委員が多そうなので、この枠組み設定のために、すでに始まっている他市の事例など参考にす

ることになります。それらを参考にしながら、では久小学区では・・・を作っていくことになり

### 子ども部会 報告者 東浩司

子ども部会では、「子ども食堂」を始める提案をすることで確認しました。運営方法や案内資料の作り方

などを協議しました。詳細は11月の意見交換会で共有できればと存じます。

### 減災部会 報告者 鈴木為之

避難所訓練について話し合いました。避難所訓練は、訓練内容は毎回大きく変わらないでも、参加者が変わることによって、関わる人を増やしてすそ野を広げることと、誰でも使えるマニュアルを作り上げていくことを目指しています。実際には参加する人は毎回同じ自治会・町内会の役員や自主防災組織の人たちなので、一向にすそ野が広がっていかないのが現実です。なるべく避難所へ避難しないで良いようにし

たい。そのための対策が必要でしょう。在宅避難者の把握が地域にとって重要で、これは地域の大きな仕事です。

地域と避難所の関わりをもっと明確にする必要があるでしょう。今回初めて在宅避難者に係る訓練が取り入れられた意義は大きいのではないのでしょうか。

今回の訓練は、最初から全員参加で行われるが、減災部会では特に「地域への緊急物資引き渡し」訓練に注目して参加することになりました。

訃報 当会副会長(山の根親交會会会長)、高野安代様が急逝されました。享年77歳。

謹んでお悔やみ申し上げます。

久木小学校区住民自治協議会

## 編集後記

住民協意見交換会(9月22日)の席上、市長から直面している市の財政難について縷々説明がありました。説明の要約は、「役員会からのお知らせ」に記載しておきましたのでご覧ください。

示された資料によると、市の一般会計の規模は大凡200億円、年間の次年度に繰り越せる額(実質収支)は10億円前後、貯金(財政調整基金)は7億円前後で推移しています。家計に当てはめてみると年間200万円使う家庭の黒字が10万円程度、貯金は7万円程度あったのが、収入が減って貯金を使ってしまったということです。

収入の減少が国からの交付金の見込み違いということですが、平成16年に地方交付税が大幅減額されて、一挙に貯金を減らしてしまったという同様の例があるようです。自治体の財政の構造が、国という他力依存の面があり、企業に比べていささか脆弱であることを知りました。

脆弱であれば、それなりのきめ細かな運営が必要であり、市民協働が言われている今、事態を速やかに市民に知らせることも必要でしょう。今回はさる政党の折り込みピラで知るということは異常でした。

事務局長 鈴木為之 ([tame\\_yuki@ybb.ne.jp](mailto:tame_yuki@ybb.ne.jp))

山の根3-1-7、871-5294)